

北条の空き家古民家「吉沢邸」

# 100 YEARS Sustainable Community

築100年以上の想いをのせて、工芸品や物産品をIoT技術で販売管理する店舗をつくるプロジェクト



## 運営メンバー

## Who?

北条街づくり振興会青年部会（みんなの登校日）の活動に関わるメンバーが個人出資し2020年7月現在、運営のための合同会社を設立手続き中。つくばに拠点を置くメンバー其々の専門性（工芸、IT、建築、接客、写真、大学生）を活かした店舗を運営し、地域への周知や広報、山麓エリアの街づくり団体との連携を強めていく

## 北条の課題

北条は人口の増えるつくば市内でも、人口が減り続け2004～2019年の15年で20%近く人口が減り少子高齢化が急速に進んでいる。2019年度に北条街づくり振興会青年部会が行った地域アンケートによると廃校・空き家問題、移住者が増える、高齢者が集まれる場所、こどもの遊び場、交流できる場がほしい、若い人に増えてほしいといった声が多い。家族以外と交流できる場や機会が減り地域コミュニティが弱くなっている



## 課題解決に向けて

地域の「内」の人が地産地消を、「外」の人が地域と出会い知るため、地域の物産品と情報を提供できるよう、空き家となった古民家「吉沢邸」を補修し店舗を作る。店舗内に地域交流拠点を作ることで、地域の人に必要なたまり場を提供。地域の内の人同士の交流、外の人との交流、外の人同士の交流の場としてコミュニティスペースとして機能させる。また若者移住を促進するため働く場所としておしゃれな古民家コワーキングスペースを提供できるよう空間を創り上げる

## and Who? 利用する人

- 地域住民
- 高齢者
- 働く人
- サイクリスト
- 大学生
- 地域生産者
- 観光客
- 子育て世代の親

## つくばのコア技術力その① 「伝統の工芸文化」

北条は筑波山麓の生産物の集積地だった歴史から、受け継がれてきた自然と農村文化その生活を支える工芸文化があり、現在も竹工芸や藍染、はんでんなどを作る若手作家が活躍している。建築物として価値ある古民家「吉沢邸」に、地域で支え合ってきた物産品や工芸品の店舗があることで、地元住民が徒歩で通いコミュニケーション、サイクリストが立ち寄り山麓を知ることができる場となり、新たな需要と価値を創出する

## 工芸 × IoT

## つくばのコア技術力その② 「最先端科学技術」

with コロナ時代のキーワードともなる、高い換気性能を持った解放的な空間が特徴の日本の木造建築と、自然豊かなつくば山麓の低密度環境を持ち合わせた「吉沢邸」。ここにIoTシステムを導入し、防犯/防災上の安全性と高い生産性を両立。販売システムは勉強会を行いながらキャッシュレス決済の利用を定着させ、利用者用Wi-Fiを完備しセルフドロップインでスペースを使用できる仕組みを充実させる事で、管理労力を極限まで削減する

地域コミュニティ  
形成・強化

新しいアイデア  
商品開発

職住近接  
移住者の増加

新しい交流  
地域認知の拡大

## 店舗をつくる

古民家再生のワークショップを開催

お掃除と減築  
文献・古物の仕分け  
内装DIY伝統の土壁補修

地域住民  
への周知

筑波大学生

参加型で理解を深めていく